

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（令和4年3月）		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①新学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の編成と、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②課題解決力や表現力を育む探究活動や学校行事など、生徒の主体的な活動の活性化を図る。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現やICTを利活用する授業に組織的に取り組む。</p> <p>②生徒が主体的・協同的に取り組む探究活動や学校行事を実施する。</p>	<p>①ICTを積極的に活用し、授業のユニバーサルデザインに取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。</p> <p>②探究活動や体育祭、文化祭などの学校行事に生徒が主体的に関わることができるよう指導する。</p>	<p>①各単元においてICTを活用した授業に取り組めたか（単元ごとのICT活用状況、回数）。</p> <p>①クラウドサービスを積極的に活用し、生徒が学びに主体的に取り組めたか（課題の提出状況、回数）。</p> <p>②探究活動や学校行事等に生徒がどのように関わることができたか。</p>	<p>①新学習指導要領へ円滑に移行するため、新学習指導要領に準じた年間指導計画を作成した。</p> <p>①分散登校中、すべての教科において、オンライン授業に取り組む、生徒が主体的に取り組むべき課題等を配信し、回答、提出等をさせることができた。</p> <p>②『総合的な探究の時間』は、全学年が各学年のねらいに応じて熱心に取り組んだ。</p> <p>②『体育祭』は、例年より実行委員会で行う業務を増やし、生徒たちの協議により運営等について決めた。また、『球技大会』は、3年体育委員を中心に、企画・立案から時間の管理、終了後の教室移動も含め、生徒が行った。</p>	<p>①分散登校中だけでなく、通常登校においても、すべての教科において何らかの形でICTを積極的に活用できるよう、研究や研修を実施する。</p> <p>②生徒の探究活動は、調べてまとめたが、解決する方策まで考えるに至っていないので指導方法を改善する。外部講師を招聘した企画が中止であったが継続して行う。</p> <p>②体育祭・文化祭については来年度に向けて今年度中に実行委員会を動かす。</p> <p>②主体的・協同的な活動において3年生は活発であるが、個人によるところが大きく、次の学年につながる蓄積にしていこうと指導する。</p>	<p>①コロナ禍において生徒の学習保障に最も工夫が求められる。オンラインを導入するなど積極的な取組が成果につながった。</p> <p>②球技大会の運用等、生徒の主体性が発揮され責任感、連帯感がみられるが行事運用後はしっかり先生方で評価すること。</p> <p>①ICTを活用した指導は各教員の実践の量的蓄積が必要な段階であるという捉え方も必要である。組織的な改善策と教員個々が自発的にスキルアップを目指す仕掛けもできれば効果的であると思う。</p>	<p>①分散登校時などにおいて、ICTを活用したオンライン授業により学習保障ができたと思うが、普段の授業における取組が、個人のスキルによりばらつきがあり、学校全体の取組としては不十分である。</p> <p>②探究活動や様々な行事において、生徒が主体的に取り組む手立てを講じることにより、生徒中心の運営ができた部分があるが、教員の関わり方について検証して準備の段階から生徒が考えられるような仕組みを講じる必要がある。</p>	<p>①ICTプロジェクトを中心に研修会を行い、学校全体の教員としてのスキルを向上させるとともに、教科内で共通のICTを活用した教材を作成していくなどの取り組みを進める。</p> <p>②生徒が主体的に活動できるように早めに準備をし見通しを立てて計画を進めることにより、生徒の活動がうまくいかない場合でも立て直せる体制を構築する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒の個性を尊重し、豊かな人間性を育み、共に成長を目指す支援の充実を図る。</p> <p>②部活動をとおして、社会性やリーダーシップを育成する。</p>	<p>①相互理解を深めるインクルーシブ教育の充実に取り組む。</p> <p>②部活動の未加入者を減らし、生徒の自主的・自発的活動を多面的に支援する。</p>	<p>①生徒情報を共有する研修会を開催し、県インクルーシブ教育推進課とも連携を図り新たな支援体制を構築する。</p> <p>②新入生向けの入部促進、中学生向け部活動体験、ならびに部長会を実施する。</p>	<p>①職員研修を何回開催できたか。また、その理解度はどうか。</p> <p>①SC、SSW、支援員、介助員の活用実績や、外部機関との連携実績がどうだったか。</p> <p>①教育相談担当者等の連携状況はどうか（会議等の開催回数）。</p> <p>②部活動の入部率が昨年と比較して増えたか。</p> <p>②部活動満足度調査の結果はどうか。</p> <p>②生徒の自発的な活動が見られたか。</p>	<p>①職員に向けた「親子関係」をテーマとした人権研修会を実施した。また、SC17回、SSW12回による教育相談、教育相談担当者会議を5回開催し、支援の必要な生徒の早期の発見や早期からの支援を行えた。</p> <p>②入学当初の入部率については、一時落ち込んだが、令和3年度入学生で盛り返した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症への対策による活動の制限の遵守など、顧問へのアプローチと並行して部長会を通じて生徒自身の自主的な行動変容を促すことができた。また、部長にはリーダーとして組織動かすことを求め、それに応えていた。</p>	<p>①生徒を多方面から支援するため、今後もさまざまな視点から考えた研修会を企画する。また、カウンセリング当日は、空き時間が無い状況であったので時間増を要望した。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響で担当者会議の開催回数が少なかったが、生徒達に必要とされている支援を行う。</p> <p>②入部率の向上とともに、途中退部の率を下げため、入部検討時の情報の提供方法や、体験入部期間等を見直す。また、部長や上級生が組織のリーダーとして、自ら考えて動くことができるように支援していく。</p>	<p>①支援のニーズが多いということ、職員研修をリンクさせて考えてみることで、より効果的な研修会を設定することにつながるかもしれない。次年度も、限られた時間の中でより有意義な研修を設定していただき、専門性を高めてください。</p> <p>②コロナ禍で部活動の推進を図るのは難しいと思うが生徒たちが逆に積極的な活動をしていたのはよかった。「コロナの今だからやれること」という発想も今後は必要である。</p>	<p>①研修会において職員の知識や意識の向上が見られたが、研修の回数が少なく十分な研修を行う。</p> <p>①教育相談体制をもう一度見直し、教育相談会議だけでなく、事前のケース会議が行えるような仕組みを検討する。</p> <p>②部活動加入率の増加をするための生徒へのアプローチの方法を検討するだけでなく、部活動を辞めさせないために、部の活動自体について様々な検証を行う必要がある。</p>	<p>①年間を通して研修計画を検討することで研修会数を確保するとともに教員のニーズに沿った研修を行う。</p> <p>①教育相談体制をもう一度見直し、教育相談会議だけでなく、事前のケース会議が行えるような仕組みを検討する。</p> <p>②部活動加入率の増加をするための生徒へのアプローチの方法を検討するだけでなく、部活動を辞めさせないために、部の活動自体について様々な検証を行う必要がある。</p>
3 進路指導・支援	<p>○社会的・職業的な自立と希望する進路実現に向け、進</p>	<p>地域教育力を活用し、個々の生徒のキャリア意識を高める取組</p>	<p>キャリアパスポートを有効活用し、生徒の具体的な進路意識を</p>	<p>・キャリアパスポートの活用状況はどうだったか。</p>	<p>・1年生に対してキャリアパスポートの活用を開始した。</p> <p>・共通テスト出願者が昨年</p>	<p>・中学から届くキャリアパスポートを見てからの導入になったが、来年度は新入生の入学時</p>	<p>・キャリア意識を持たせるための取組は入学時より計画的に行うことで生徒に考えさせる</p>	<p>・キャリアパスポートについて活用を進めることができたが、まだ具体的な活</p>	<p>・生徒の進路実現にたいして、様々な方策は進めているが、学校全体の取組として情報が</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(令和4年3月)		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	路指導・支援の充実を図る。	を推進する。	高める。	・生徒の希望進路実現はどうだったか(進路状況調査数)。	より20名程度増加した。 ・総合型(A0)での進路決定者は57名、学校推薦型での進路決定者は98名、就職は5名。残りは一般受験生。	から活用できるよう準備を整えたい。 ・生徒の希望進路実現に向けて、今後もきめ細かく対応したい。	機会を与えることになる。 ・キャリアパスポートの導入は自分を客観的に見直せる良い制度なので進路を決めていく過程で生徒が上手に活用出来るようにする。	用方法についての検討が不十分である。 ・生徒の進路実現に対して、動画サポートの導入などを進めた。	十分されていないので進路支援グループを中心として、学校の進路に対する方向性を決めていく。
4 地域等との協働	○地域等と連携・協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	学校ホームページでの迅速な情報発信と、特色や魅力を伝える学校説明会を実施する。	・学校ホームページで迅速に最新の情報を発信する。  ・学校説明会等では、本校の魅力と特色が的確に伝わるよう内容の充実を図る。	・ホームページの内容更新が迅速かつ適切に行われたか。  ・本校の魅力や特色を効果的に発信できる学校説明会等が実施できたか。	・ホームページでは、周知連絡事項、PR記事、ともに迅速かつ適切に更新した。 ・「オンライン説明会」としてホームページで情報提供を行った。各部活動作成の動画、広報委員作成の動画で生徒のいきいきとした様子がよく表れていた。学校説明会の来場者アンケートでは「オンライン説明会」で動画を見た=92%、記事を読んだ=65%、であった。 ・学校説明会は、各教室10組で動画視聴、その後キャンパスツアーの形式で行った。アンケートより「知りたかったことがわかりましたか」に97%の来場者より好評を得た。	・保護者から、学校からの配付物を、ホームページでも知らせてほしいとの要望があり検討する。 ・夏から11月まで緊急事態宣言で部活動見学を実施できなかったが、解除後は個別に見学を行った。 ・例年は、夏休みに見学会1回、12月に説明会1回のスケジュールであった。今年度は、10~12月に説明会を3回実施したが、少人数対応による教員の負担も大きい。説明会の実施時期、形態を、コロナの状況も見ながら検討していく。	・学校ホームページの積極的な更新についても、コロナ禍ということもあり、学校を理解してもらうための有効なツールとなる。今年度は入学者選抜の競争率も上昇したという事実からも、湘南台高校に対する注目度はますます高くなっていくことと思います。より一層の効果的な発信をお願いします。	・ホームページを活用して様々な情報発信を行うことはできたが、ホームページの活用方法について検討が必要である。 ・学校説明会はICTを活用することで多数の人が参加することができ、学校について知ってもらうことはできた。更に層の効果を高めることが必要である。	・情報発信だけでなく、様々なホームページの活用について検討することやClassroomやClassiなどのツールを含めた情報のやり取りを検討する必要がある。 ・コロナ禍がおさまった後の説明会について、効果的にICTを活用する方法を検討するなど説明会全体の形態を考える。
5 学校管理 学校運営	①安全・安心な教育環境を保持し、社会に開かれた教育課程の実現をめざす。  ②職員のワークライフバランスを推進するため、協働意欲を高め、校務の効率化を図る。	①事故不祥事防止会議や職員研修会を実施し、コミュニケーション力や組織力の向上を図る。  ②タイムマネジメントを意識して働き方を改善する。	①情報共有を適切に行い、事故不祥事防止会議や職員研修会、入選会議等を徹底し、事故不祥事を自分事として捉える。  ②外部人材等を有効に活用することや、業務を計画的また組織的に遂行することにより、時間外在校時間等を減らす。	①事故不祥事防止会議、職員研修会、入選会議が効果的に実施できたか(取組状況と回数)。  ②外部人材等を有効に活用できたか。  ②部活動指導については、「湘南台高等学校部活動に係る活動方針」に則り、合理的かつ効率的・効果的な活動を推進し、適切に休養日を設定できたか。	①月に1度、事故防止会議を行い、学校として事故・不祥事ゼロを目指し、職員の意識の向上、個人や組織としてルールの再点検をしていった。  ①夏休み前と1月に「不祥事を自分事として考える」をテーマとして職場討議を行い、具体的な対応策を検討した。  ①入学者選抜会議で事故を起こさないための手順や方法を検討し、入学者選抜マニュアルに反映させた形で研修を行った。また、成績処理手順を整理し、点検方法を見直した。  ②教員研修や部活動などで外部人材を効果的に活用した。  ②部活動指導については、「湘南台高等学校部活動に係る活動方針」を遵守して感染症対策を十分に実施しながら行った。	①職員は、意識をもって行動をしているが、「慣れ」や「油断」、「思い込み」が事故になりかねないの今以上の職場環境の整備と職員の意識を維持していくことができるよう適切な時期に研修・啓発等を行い、自身の行動を見直すようにする。  ①入学者選抜会議では、コロナ禍の対応で途中変更となった部分の周知が不十分であったので次年度においては対応可能なマニュアルの作成が必要である。  ①成績処理の点検方法は各教員の理解をより進めていく必要がある。  ②コロナ禍の影響で外部人材活用に制限を受けたが、授業などでも外部人材の活用を検討していく。また、特定の教員に負担が偏らないようできる限りインストラクターや部活動指導員の活用を推進する。	②外部者をすべて同じように扱うのではなく、高校運営にとって必要な外部人材の構築は必要であろう。  ①事故不祥事防止のため定期的にテーマを決めて職場討議を行うことは職員の意識維持につながると思う。  ①新しい制度導入やコロナ禍による授業形態の変化の対応、多岐にわたる研修など先生方への負担が急増しているように感じます。上手な役割分担で先生方の心身のケアマネジメントを継続して頂きたいです。  ②管理運営は大変だと思いますが、外部人材が活用されれば今よりは時間に余裕ができるのでよいと思います。	①定期的な事故防止会議を行うことで職員の意識向上は図れてきたが、事故とはならないまでのヒヤリハットの事例はあるので、更に効果的な会議や研修が必要である。  ①各業務において事故を起こさない手立てを講じているが、教員の負担にならないような効率のよい方法を検討する必要がある。  ②コロナ禍で外部人材の活用が制限されていた中でICTの活用によりリモートでの参加ができていたが、制限がなくなった場合の活用について検討をする必要がある。	①事故防止を徹底するための会議や研修について多く行うと慣れが出てきてしまう部分があるので、効果的な時期や内容を検討する必要がある。  ①入学選抜について今年度のマニュアルや研修について検証をし、より事故が起きない形にする。  ②外部人材の活用について、職員の業務軽減のためだけでなく、最終的に生徒に還元できる活用について検討する。特に探究の時間や授業についての外部人材の活用について検討する。

